

持続可能なブルーカーボン事業の 実現に向けて

(2025 年度)

大阪大学 赤井伸郎ゼミ 執筆論文ダイジェスト集 (2025)

赤井ゼミでは、実証分析を用いた政策提言型の論文を執筆しています。
この冊子では、赤井ゼミが過去に執筆した論文を簡単にご紹介します。
論文はゼミHPからアクセスできますので、ぜひご覧ください。

【論文の内容】

日本では沿岸域の海洋生態系の保全とカーボンニュートラル実現に向け、海洋で二酸化炭素を吸収する海藻などのブルーカーボン生態系に関心が集まっている。この論文ではブルーカーボン保全・創出を金銭的に支えるJブルークレジットの売れ残りに着目し、販売済率に影響を与える要因とブルーカーボンの持つ多面的価値(コベネフィット)の定量化とクレジットにコベネフィットを記載することの効果进行分析した。

その結果、潜在的な購入者と創出者とのマッチングやクレジットの価格を上昇させるコベネフィット特記事項を記載するための水質や食糧の測定支援を提言した。

【表彰・評価】

- WEST論文研究発表会 優秀賞
- ISFJ日本政策学生会議 分科会賞

ブルーカーボンという先進的な取り組みについて、先行研究やデータが非常に少ない中で定量分析に取り組んだ姿勢や課題導出から政策提言、実現可能性までの一貫した論理展開が高い評価を得た。新しい領域であるため、過去の政策に囚われず、新規性のある政策を提言した点がこの論文の特徴である。

持続可能な地域交通に向けて

地域公共交通に関する考察

(2025 年度)

【論文の内容】

近年の人口減少や自家用車の普及に伴い、民間の事業者による地域交通サービスの維持が困難になっている。「地域交通法」により、各地域において協議会を組織して「交通計画」を策定することが義務付けられている。本稿では、「交通計画が未策定である市町村が存在すること」と「交通計画の実効性が確保できていないこと」を問題意識とした。分析では交通計画の策定要因と計画策定が事業運営の効率化に与える影響を検証した。また、運輸局へヒアリングで、未策定自治体の内情と実行計画の可能性を調査した。これらより、人的・財政的負担を軽減した上で、すべての市町村において計画策定を完了し、計画の実効性を担保するため、「圏域」単位での計画策定を提言した。

【表彰・評価】

地域公共交通は社会資本整備の問題で、国にとって非常に重要な課題であり、それに対して取り組んだ論文として価値がある。行政コストについて、ヒアリングを通じて明らかとした上で策定の阻害要因を分析している点に説得力がある。定量分析に関して、マルムクイスト生産性変化指数を使って効率性を考察している点が評価できる。

中小企業の事業承継支援の方向性

-地域特性を踏まえた支援体制の構築に向けて-

(2025 年度)

【論文の内容】

日本経済や雇用の面で中小企業は重要な役割を果たしているが、後継者不在問題が深刻化し、都道府県間で大きな差がみられる。本稿では「地域における支援体制が十分に事業承継を促進できていないこと」を問題意識とした。分析では三重県の支援策を政策介入事例とし、合成コントロール法および固定効果モデルで他県との比較による政策効果を検証した。さらに、Succession Risk Index (SRI) を構築し、都道府県別のリスク水準を可視化した。ヒアリング調査を踏まえ、自治体主導の事業承継支援体制の構築と支援機関の数と質の両面を確保する制度導入を提言した。

【表彰・評価】

- WEST論文研究発表会 優秀賞
- ISFJ日本政策学生会議 分科会賞

中小企業の事業承継支援という重要な政策課題を扱った。現状分析から政策提言まで論理構成が一貫し、問題設定の明確さが評価された。合成コントロール法や固定効果モデルによる定量分析は高度であり、各都道府県の支援担当者を対象としたヒアリング・アンケート調査を組み合わせ、定量・定性の両面から丁寧に政策効果を検証している点が評価された。